

2-1 ウイルス対策ができていないときのトラブル

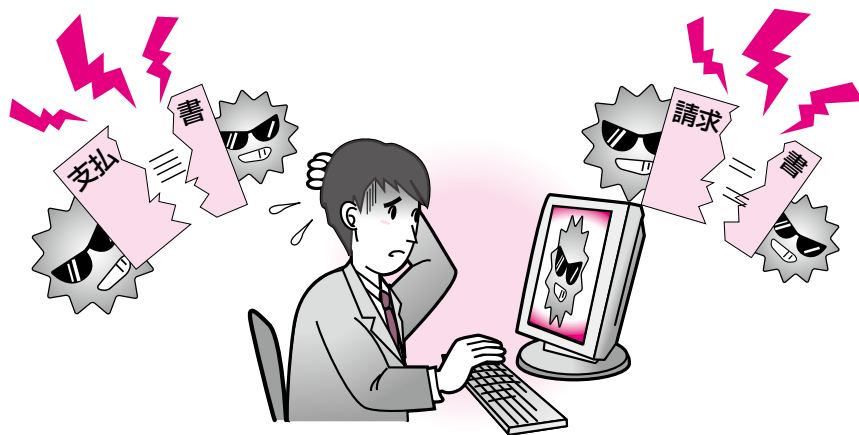
事例1 ウイルス対策ソフトの未導入による被害

家電メーカーのX社では、社内ネットワークのセキュリティ対策を講じています。その一環として、利用者の各コンピュータにウイルス対策ソフトをインストールすることが義務付けられています。

X社の経理部に勤務するAさんは、業務でパソコンを利用していました。Aさんは、ウイルス対策ソフトのインストールが義務付けられていることを知っていましたが、経理部の同僚もインストールしていなかったため、特に気にせずに利用していました。

ある日、Aさんを含む経理部の大多数のパソコンで、処理が異常に遅くなり、業務に支障をきたすほどの事態が起きました。慌てたAさんが情報システム部に調査を依頼した結果、ウイルスに感染していることが判明しました。被害の範囲を調査したところ、ウイルスに感染していたパソコンでは、いくつかのファイルが削除されていることがわかりました。Aさんのパソコンでも重要なファイルが削除されており、関係者に多大な迷惑をかけてしまいました。

この事例の要因として、経理部でウイルス対策ソフトが導入されていなかったこと、データのバックアップが取られていなかったことがあげられます。



■ ウイルス対策ソフトを導入する

ウイルス対策ソフトは、ウイルス感染の防止や感染後の駆除を目的として、個々のパソコン上で動作するプログラムです。

一般的なウイルス対策ソフトの導入の流れは、次のとおりです。

- ① ウイルス対策ソフトを選定してインストールします。
- ② ウイルス定義ファイルを常に最新状態にします。
- ③ ウイルススキャンを定期的に実行します。
- ④ ウイルス常時監視機能を有効にします。

※各項目の機能名はウイルス対策ソフトによって異なります。

■ バックアップを取る

「バックアップ」とは、重要なデータを別の場所や媒体にコピーして保管することです。ウイルス被害にはデータが削除されてしまうこともあります。万一に備えて、定期的にバックアップを取ることを心掛けましょう。

チェック

- ☐ ウイルス対策ソフトを導入しましょう。
- ☐ 定期的に別媒体にデータのバックアップを取りましょう。

用語

ウイルススキャン

パソコンがウイルスに感染しているかを確認することです。

ウイルス常時監視機能

メールの受信時やファイルを開こうとしたときなど、常にウイルスの侵入を監視して感染を防止する機能です。